
近 刊 紹 介

Grundlagen der Chemie und chemischen Technologie des Holzes. Prof. Dr. W. Sandermann, Leipzig. 1956, Akademische Verlagsgesellschaft Geest & Portig K.-G., 498 Seiten, DM 48.

著者は Reinbek-Hamburg のドイツ連邦林産研究所員 (Bundesforschungsanstalt für Forst-und Holzwirtschaft), 樹脂の化学に於ける研究で知られている。本著は木材化学, 木材化学工業の講義の拡充で, この広い領域の基礎から始め最新の工業技術に関する高度の知識まで与えようとしている。少い頁数でよくこれをなし遂げているのは, 要領のよい表示の採用, 豊富な写真版, ならびになによりも機械構造及び操業工程の略図が優れているためであ

る。これらの点は多くのドイツ科学書の特長であるが中でも本著は誠によくできている。初章に木材化学工業の史的発展ならびに現在の世界経済に於ける重要な地位がかなり詳しく述べられているのは序文にもある通り類書に見られないところであるが, 本章よりも一般木材化学の研究実験法, 試験法等をまとめた末章の意義が大きい。フルフラル, α -ロン酸等の定量法はもとより, 木材接着剤の試験法, 木材防腐剤の定性定量法から種々の講義実験の如きに至るまで実に広い範囲にまとまつており, それも実験の要点だけでなく, 実験書として本書のみを頼りに実施できるのは学生, 研究者, 一般木材化学工業関係者に大きい便宜を与えるものである。文献は実に約 1,100 を上げているので深い研究を志す者にとつても誠に有難い。(北尾弘一郎)

所 員 の 活 動 状 態

論文関係

木材物理第 1 研究室

後藤 輝男

“合板及び素材と硬質繊維板の接着について” 合板検査ノート No. 100 (特殊合板) (1957)。

木材物理第 2 研究室

満久 崇麿・佐々木 光

“Some factors which affect the swelling properties of chip-board”. Composite wood (Dehra Dun) Vol 3, No. 5~6. (1956)

木材物理第 3 研究室

杉原 彦一・菊川 茂・齊藤 勇・谷尻 正三・土肥 修

“両歯帯鋸による製材に関する研究 (第 3 報) 帯鋸温度分布と安定位置” 日本木材学会誌・Vol 3, No. 2 (1957)

木材化学第 1 研究室

小林 穆

“活性炭・その 1, 製法と性質” 澱粉工業学会誌

Vol 4, No. 3, 1~9 (1957)

木材化学第 2 研究室

西本 孝一・布施 五郎

“P. C. P. ソーダ塩の溶脱性とその防止法について” 木材工業, Vol 12, No. 5, 17 (1957)

講演関係

木材物理第 1 研究室

後藤 輝男・梶田 茂

“注入木材に関する研究 (第 11 報) 石炭酸樹脂処理木材の比重, 圧縮強さ, 硬度及び衝撃曲げ吸収エネルギーに及ぼす樹脂硬化過程の影響, (第 12 報) 石炭酸樹脂処理木材の引張, 曲げ及び剪断強さに及ぼ